

(1) 学校「総合的な学習の時間」における実践例(その2)

ーカレー作りからゴミ問題解決サミットへー

加古川市立小学校(5, 6年生)

プログラムのねらい

身近な「買い物」「調理実習」を通してゴミ問題について考えることにより、自分たち一人一人の消費生活のあり方が広く地域社会や地球環境の問題と結びついていることを知り、自分たちの暮らしを見つめなおすことができるようにする。

人数 指導者	40人~1学年 学級担任	実施場所 活動時間	教室・家庭科室 10時間
-----------	-----------------	--------------	-----------------

学習のすすめ方

学 習 活 動	留 意 点
<p>カレーの材料を買いに行こう!</p> <ol style="list-style-type: none"> 一人500円の予算で班ごとに買い物に出かける。 材料を持ち寄り、調理準備をし、カレー作りに入る。 試食後、生ゴミ量、燃えないゴミ量、残さい量を計り、班ごとに黒板に記入する。 ゴミのでない買い物の工夫を発表する。 <ul style="list-style-type: none"> 買い物袋を持参する。 必要な量だけ買う。 専門店も利用する。 無駄な包装やトレー類をさける など 残さいを利用した調理計画を次の時までには班で計画しておく。 <ul style="list-style-type: none"> カレーうどん、とん汁、ポテトオムレツ など 	<ul style="list-style-type: none"> 安全のこと、買い物のマナーについて以外の買い物のしかたの指示はしない。 班ごとの材料代、調理時間などを黒板に記録し、いかに早く上手に作れるか 作業に集中させる。 生ゴミ入れ他、ゴミ箱はしまっておく。  <ul style="list-style-type: none"> 次の時までには調理計画表を提出させ、相談にはアドバイスしておく。
<p>買い物に出かけよう パートⅡ</p> <ol style="list-style-type: none"> 班での調理計画をもとに、前の時のおつりでまかなえる範囲で再び買い物をする。 調理、試食後、出たゴミを計量し、前の時と比較する。 班ごとの買い物、調理の工夫を発表する。 <ul style="list-style-type: none"> 買い物袋を持参 スーパーの袋を断る ペットボトル入りのジュースでなく水筒を持参 など 	<ul style="list-style-type: none"> 前時で出された買い物の工夫を確認後、買い物に行かせる。 生ゴミ、燃えないゴミを分別して残させておく。 
<p>燃えないゴミって、本当に燃えないの?</p> <ol style="list-style-type: none"> 前の時までに出たゴミ類を燃やして、燃え方、炎の色、煙の色とにおい、燃えかすの色と様子、燃えつきた時間間を観察し記録する。 燃焼実験の結果を班ごとに発表し、生ゴミとプラスチック系のゴミの燃え方の相違を比べる。 「プラスチックゴミはよく燃えるのに、なぜ燃えないゴミか」意見発表。 アメリカと日本の焼却場の数比べや分別収集、混合収集のしかた別による都市の生活ゴミ量を比較する。 次時までには、ゴミ問題についての意見をまとめておく。 	<ul style="list-style-type: none"> 生ゴミ、燃えないゴミ(缶、ビニール袋、ラップ、ペットボトル、トレー、ポリ袋など)を種類別に分け、どれも5cm四方に切り取る。 土を入れた箱、アルコールランプ、ピンセットを用意。 プラスチックゴミ処理を巡る話題をいくつか取り上げる。 分別収集先進都市、リサイクル運動の試みをいくつかあげる。 ゴミ問題について家庭でも話題にすることを告げる。

ゴミ問題解決サミットを開こう

1. サミットで食べる軽食(ポテトチップス、紅茶)を作る。
2. あらかじめまとめた意見をもとに、消費者、スーパーの店長、企業の社長、政治家の立場で意見を討論する。
3. 班ごとに、子どもたちでできるゴミ問題解決案を提案する。
 - ・国や県に手紙を送る
 - ・リサイクルに取り組む
 - ・買い方についての意見を広める など

ゴミを再生してみよう

1. 牛乳パックの手すきハガキづくり、リサイクル工作、石けん作りなどを親子で体験する。
2. 夏休みの自由研究で「ゴミ研究」、「買い物袋などの作品づくり」に取り組む。

- ・使用後の油処理について、家庭での取り組みを調べてく
- ることを告げる。
- ・自由討論の後、「実現可能な提案とは？」という課題
- で現実と結びつく意見を引き出す。



- ・家庭での油処理法の調査結果から、油の処理法と水汚染
- 問題との関わりにつれ、原則油は使い切ることを強調す
- る。
- ・学習に関連した自由研究を呼びかける。

用意する物

- ・ワークシート ・軽食材料 ・紙すき道具 ・牛乳パック
- ・資料（日米焼却場比較、分別収集先進地、リサイクル運動
- の試み、5R、グリーン購入 など）
- ・燃烧実験用具（アルコールランプ、ピンセット他）
- ・廃油石けん材料

必要経費

- ・一人当たりの予算500円×人数
- ・リサイクル工作材料代（のり、化成ソーダ など）



児童の感想から

- ・私は、ふつうにカレーを作っていたのだけれど、ゴミ箱が全然なくて少し困っていたら、生
- ゴミや燃えないゴミの重さを計って黒板に書くようにと指示があり、その時私は、ハッとしま
- しました。ゴミのことや分別のことをあまり考えていなかったからです。
- 調べてみると、ラップやビニール類、トレーがいっぱいあることに気づきました。でもこれ
- は、工夫すれば何とかへらすことができると思いました。
- ・同じカレーの材料を買ってきても、何も気にせず買うのと、少し注意しながら買うのとでは、
- ゴミの量がずいぶんちがうことが分かりました。買い物袋を持っていくだけでも、ポリ袋
- を使わなくてすむ。それと「私たちはゴミを買っている。」という言葉がとても心に残りまし
- た。考えて調理すれば残さいも料理に使えるのがびっくりだった。サミットでは、店長さん
- の話や友だちの工夫がとても参考になりました。

先生の感想

総合的な学習というよりは、「家庭科の発展学習で、5Rやグリーンコンシューマー（注）としての消費生活、環境問題についても少し学習した」という感じです。

児童の興味によっては、エコ商品やリサイクルグッズ、炎色反応によるダイオキシンの発生実験、生ゴミ堆肥作り・コンポストなどの準備もしていましたが、どちらかという教師主導の環境学習になってしまいました。

しかし、これまでの授業で、子どもたちは改めてゴミ問題を自分たちの身近なこととして感じてくれたようでした。物を買ってしまうと、その後はゴミを出していても特に意識しない生活の中で、買う時からゴミを出さない買い方を工夫したり、買った後も少しでもゴミを少なくしようとする努力は、新しい時代を生きる人間として必要な、新鮮な活動と感じられたことでしょう。

また、児童のより主体的な活動にするため、4年生国語科教材の「カレーの旅」から発展させたり、カレーに限らず、色々なメニューからの取り組みが可能です。

パートナーシップとしての効果

ゴミ問題解決サミットでは、実際に消費者協会の会長さんやスーパーの店長さん、市場で働いている人、市役所からのゲストなどを招いて討論会をすることも可能でしたが、今回は、児童がそれぞれの立場で役割演技をしながらディベートすることにしました。あらかじめ、お店の人の意見を聞いて来ていたり、家族や自分の意見もまとめていたので、活発な討論会になったと思います。

校区内にあるスーパーや市場へは、子どもたちの活動について簡単な説明をするだけでしたが、それぞれ子どもたちの無理な要求に対応して下さり、感謝しています。

今後、さらに詳しくゴミ問題について追求していったり、学んだことを活かして校内や地域へ情報発信していく活動へと継続・発展させてほしいと願っています。

注) 5R

循環型社会を実現するために、単に排出されたものをリサイクルするだけでなく、

reduce（リデュース：資源・エネルギーの投入量を減らす）、

reuse（リユース：繰り返して使う）、

recycle（リサイクル：再生利用する）の3Rが重要です。

兵庫県では、それに加えて

refuse（リフューズ：ゴミとなる物の受け取りを拒否する）、

repair（リペアー：修理して使う）という行動も取り込んで5Rとし、

これからのライフスタイルに関する概念を整理しています。

注) グリーンコンシューマー

- ・環境に配慮した消費者のこと。家庭や事業所などにおいて、環境に対してできるだけ負荷をかけないようにした製品やサービスを購入することをいいます。
- ・省資源・省エネルギー、製品の長寿命化、再生資源の使用、不要品のリサイクル・処理・処分の容易さなどに配慮した製品やサービスの購入とともに、不要なものを購入しないことが含まれます。